

再生する唯一の臓器

肝臓の可能性を追求



金沢大学医薬保健研究域医学系
肝胆膵・移植外科学 教授

やぎ しんたろう
八木 真太郎氏

- 1997年 三重大学医学科卒業
- 2006年 三重大学大学院医学系研究科 生命医科学専攻修了
- 2008年 ドイツRWTHアヘン工科大学実験外科学講座
- 2011年 京都大学医学部附属病院臓器移植医療部 助教
- 2012年 神戸市立医療センター中央市民病院外科 医長
- 2014年 京都大学医学部附属病院肝胆膵・移植外科 助教
- 2018年 同講師
- 2020年 金沢大学医薬保健学域 肝胆膵・移植外科学 教授

肝臓がんや膵臓がんなど、肝胆膵領域は他の臓器に比べて難しい病気が多く、手術の難度も高いといわれています。高難度手術を数多く手がけ、肝臓の再生に関する研究も行っている八木真太郎教授を訪ね、肝胆膵・移植外科の取り組みについてうかがいました。

肝臓の再生能力を生かした
治療や研究に力を注ぐ

肝臓、胆道(胆管、胆嚢)、膵臓はお腹の中で近接しており関係が深いため、肝胆膵領域としてひとくりに扱われます。この領域の病気は他の臓器に比べ診断や治療が難しいことが特徴で、特に早期のがんは無症状のことが多いためさらに診断を困難にしています。

私は肝胆膵の外科手術、それから肝臓の移植を専門としてきました。「肝臓かなめ」という言葉があるように肝臓は非常に重要な臓器で、私たちは肝臓がないと生きることができません。また興味深いことに、肝臓は人体で唯一再生する臓器でもあります。健康な人であれば手術で70%ほど切り取っても、大きさも機能も元に戻ります。大きく切り取る必要がある場合、あらかじめ切除する側の血流を止め、残す側への血流を増やして大きくするという処置を行うこともあります。肝臓が再生する臓器だからこそ、こうしたことが可能となるわけです。

肝臓の移植には2つの種類があります。ひとつは脳死肝移植。脳死と判定された方から肝臓を提供していただいて移植する方法で、欧米では主流となつていきます。日本ではもうひとつの生体肝移植を

中心に発展してきました。健康なドナー(提供者)の肝臓の一部を切り取ってレシピエント(移植患者)に移植しますと、ドナーの肝臓は元通りに再生しますし、移植した肝臓もレシピエントの体の中で適切な大きさに再生します。つくづく不思議な臓器だと思えますし、同時に大きな可能性を秘めているともいえますよね。こうした肝臓の再生能力を最大限に生かした医療を目指し、今後も研究に心血を注いでいきたいと考えています。

病状に応じた低侵襲手術と
患者に寄り添うチーム医療

近年、肝胆膵外科手術でも体に負担の少ない腹腔鏡手術が導入されています。といったメリットがあります。当院では肝臓の手術の半数以上が腹腔鏡手術で行われていますし、治りにくいがんの代表格である膵臓がんについては開腹手術が基本ではありますが、ある部位に限局した症例など条件が揃えば腹腔鏡手術を積極的にを行います。肝胆膵は手術が難しい領域ではありますが、医療機器や技術は確実に進歩しており、病状に応じて体に優しい医療を提供できるよう、私たちは日々たゆまぬ努力を続けています。

近年大きく変わってきた点といえば、

チーム医療の広がりもそのひとつ。例えばがんの患者さんであれば外科と内科、放射線科、病理医の4つの診療科が毎週合同カンファレンスを行い、一人ひとりの症例を検討して最適な治療方針を決定します。看護師や薬剤師、管理栄養士、リハビリ専門職、ソーシャルワーカーといった多種の連携も大切です。治療だけでなく退院後の生活といった社会的背景も含め、みんなで知恵を出し合って患者さんをサポートするチーム医療の重要性が今後ますます高まってくるでしょう。

北陸唯一の肝移植施設で
豊富な経験を生かす

あえて難しい分野にチャレンジしたいとの思いから肝胆膵外科の道に進みました。肝臓の移植は10時間前後を要する複雑な手術です。マラソンが趣味で毎年フルマラソンに出場しているのですが、気持ちの上で手術との共通点が多いですね。調子が良いからといって飛ばしすぎると後が大変です。長時間の手術も同じで、気力と体力を常に安定した状態に保つことを意識しています。

全国に脳死肝移植を行う施設は27あり、その中で当院は北陸唯一の施設。まさに北陸の最後の砦です。前任地の京都大学は全国で最も多く肝移植を手がけて

きた施設で、術者や助手としておよそ100例、間接的には500例以上に携わりました。今後は経験を活かし、北陸での肝移植に貢献したいと思っています。研修医の頃から意識してきたのは、自分が患者あるいは家族の立場だったらどうしてほしいだろうかということ。数年前に父の手術をしました。家族だから最善を尽くしたいと思うわけですが、実際は他の患者さんの治療と何も変わらないことに気がきました。裏を返せば、大切な人にしてあげたいことを患者さんにもしてあげられていた、これまでのやり方でよかったのだと合点がきました。患者さんにとって最善の医療を、これからも追求したいと思っています。



八木教授は難易度が高い肝胆膵外科手術を安全・確実に行う専門医の資格も持つ